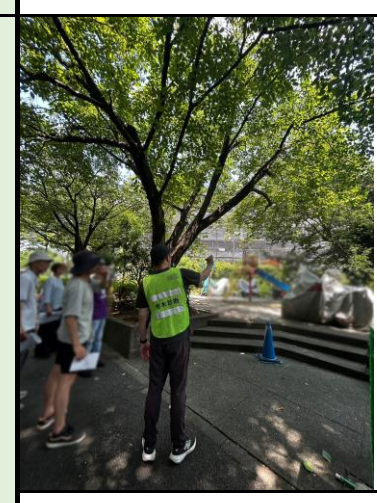
取組の名称		樹木医による診断と育成管理で守る都市の樹冠 ―グリーンマネジメント（植栽資産の管理経営）
活動主体（団体名）		株式会社トシ・ランドスケープ
活動主体（団体名）（フリガナ）		カブシキガイシャ トシ・ランドスケープ
取組の内容（自由記述）	①概要	東京・恵比寿を拠点とする造園会社として、樹木医3名・街路樹診断士3名を中心に、都内のマンション、社寺、公園、学校、街路樹などの樹木を「植栽資産」として診断し、育て、その機能を活かす取組です。 【生態系機能の活用】都市の樹冠は、木陰と蒸散による暑熱の緩和、二酸化炭素の吸収、雨水の浸透、大気の浄化、鳥や昆虫の生息環境といった機能を持ちます。当社はこの機能を失わないよう、外観診断と機器診断（Resi PD・アーボソニック3D・ピカス）で樹木内部の腐朽や倒木リスクを見極め、伐採は最後の手段として、剪定・土壌改良・根系の保護・樹勢回復により樹冠を維持します。 【社会課題への対応】猛暑・豪雨・強風の激甚化に伴う倒木被害の防止（防災・減災）、ヒートアイランドの緩和、緑地の減少への対応（緑の保全・管理）、住民の安全と快適な暮らしに寄与します。 【効果・影響・範囲への配慮と関係者との連携】i-Tree Ecoによる生態系サービスの定量評価と樹冠被覆率の視点で緑の価値を可視化し、管理組合・住民・社寺・行政・研究者と合意形成しながら、5～10年の中長期計画で管理します。東京都公園協会「暮らしに役立つ樹木講座」（2026年9月28日・日比谷公園）で講師を務めるなど、講座・研修・SNSで都民への普及啓発にも取り組んでいます。
	②取組内容を確認できるURL（または資料添付）	公式サイト：https://toshilandscape.co.jp/ グリーンマネジメント（取組の考え方）：https://toshilandscape.co.jp/green-management 事業部門（グリーンメンテナンス／ツリーリスクアセスメント／ランドスケープコンサルティング）：https://toshilandscape.co.jp/archives/service 実績：https://toshilandscape.co.jp/archives/works　／　ブログ（現場報告）：https://toshilandscape.co.jp/blog
	③実施時期、頻度	2013年の創業以来継続。年間管理契約先は年数回の定期作業、樹木診断・樹勢回復は随時（年間500件以上の現場）、講座・研修は年数回
	④活動場所（所在地）	東京都23区を中心とする都内各地（本社：渋谷区恵比寿3-9-12、拠点：大田区南久が原、杉並区和田）および近郊
	⑤活動の規模（参加者数）	社員21名（樹木医3名・街路樹診断士3名を含む）。マンション管理組合・社寺・公園・学校・行政など年間500件以上の現場で、住民・管理者・協力会社と協働
	⑥活動状況がわかる写真（撮影年月日）（既に実施している場合）※	 2026年7月21日
		 2025年12月20日

対応する社会課題 （該当する項目にチェック／複数選択可）		☑ 子供の福祉（子供の健やかな成長を社会全体でサポート）
		☑ 都民の健康・長寿（誰もが元気で心豊かに暮らせる地域の実現）
		☑ コミュニティ形成（誰もが集い、支え合うコミュニティを至るところに形成）
		☑ 防災・減災／気候変動対策（地球温暖化に伴う豪雨や自然災害等の被害軽減）
		☑ 地域振興（東京全体の生産性、魅力向上）
		☑ 観光・文化振興（人々のウェルビーイング、東京のプレゼンス向上）
		☑ 農林水産業の成長（危機に強い産業構造への転換）
		☑ 緑や水辺を生かした空間の創出／自然地保全・管理（都市機能を高め、世界を魅了）
活用している生態系の機能 （該当する項目にチェック／複数選択可）		☑ 供給サービス（日々の暮らしに必要となる資源を供給／食料、繊維、木材、水、薬品など）
		☑ 調整サービス（二酸化炭素の吸収）
		☑ 調整サービス（都市環境の質の向上／ヒートアイランド現象・暑熱環境の緩和）
		☑ 調整サービス（都市環境の質の向上／大気汚染や騒音の低下）
		☑ 調整サービス（災害の緩和／台風、洪水、津波、地滑り、雨水浸透、Eco-DRR）
		☐ 調整サービス（水質の浄化／窒素やリンの吸収、有機物の取り込み）
		☑ 調整サービス（花粉媒介／植物の世代交代、農作物の収穫量の増加）
		☑ 文化的サービス（精神を豊かにする機能／芸術的・文化的なひらめき、教育的効果、心身のやすらぎ、観光レクリエーションなど）
		☑ 基盤サービス（生息・生育環境の提供）
		☑ 基盤サービス（光合成による酸素の生成）
		☑ 基盤サービス（地力の維持及び栄養循環）
貢献の内容 （自由記述）	①人間の幸福に対して	・樹木の内部を診てから手入れの要否を判断することで、倒木や落枝の危険を減らし、住民・参拝者・通行者の安全を守ります。 ・樹冠を残す管理により、木陰による暑さの緩和、景観の維持、お住まいの場所や職場などの資産価値の向上につなげます。 ・植栽委員会や住民説明会、講座・研修を通じて、樹木の状態と管理の根拠を分かりやすく伝え、住民が自分たちの緑に関心を持ち、納得して関われる場をつくります。 ・社寺の御神木や地域のシンボルツリーを次の世代へ引き継ぐことで、土地の記憶と心のよりどころを守ります。
	②生物多様性に対して	・「危ないから伐る」ではなく診断で残せる樹木を見極め、成熟した樹木とその樹冠を都市に残すことで、鳥類・昆虫などの生息・生育環境を保全します。 ・土壌改良やエアレーション、根系の保護により、土壌生物を含む生育基盤を回復させ、樹木の健全な世代交代を支えます。 ・病害虫防除は診断に基づき必要最小限とし、クビアカツヤカミキリなど特定外来生物の早期発見・対策で在来のサクラ等を守ります。 ・i-Tree Ecoで樹木の生態系サービスを定量化し、研究者と連携しながら、生物多様性への貢献を数値で示せる管理を目指します。